

気仙沼震災復興まちづくりワークショップ

環境情報学部 4 年 米崎誠矢

政策・メディア研究科 1 年 吉次翼

■はじめに

本報告書では、2011 年 8 月 12 日に実施された「気仙沼震災復興まちづくりワークショップ」の活動報告を行う。

■活動要旨

東日本大震災の発生から4ヶ月が経過し、復旧フェーズから本格的な復興に向けたフェーズへと移行しつつある。こうしたなかで、震災を乗り越え、かつ人口減少や少子高齢化に対応したまちづくりをどのように展開していくのかが問われている。本研究では、宮城県気仙沼市を対象に、復興まちづくりワークショップ(以下 WS)を開催し、今後のまちづくりにむけた地域資源の把握、大学との連携にむけた課題を検討した。WSは気仙沼市中心部だけでなく、大島(旧大島村)・本吉(旧本吉町)等の周辺部も視野に入れながら、それぞれの風土・地域特性に応じた復興方策について議論がなされた。

■活動成果

8 月 12 日 14:00~16:30 の日程で、気仙沼市ワンテンビルを主会場に参加者 23 名による WS が実施された。WS では、「短期(1 年程度)」「中期(5 年~10 年)」「長期(10 年~30 年)」の 3 グループを設け、それぞれ時間軸に応じた復興まちづくりプランについて活発な議論が行われた。学生・地元住民一体となった活発な議論が行われ、最後に設けられたプレゼンテーション・ディスカッションタイムにおいては、各グループの発表に対して、熱気あふれる質問が飛び交っていた。また、本活動と並行して、学生が取りまとめた政策提案集が市内 2 か所に展示され、投票形式による意見交換なども行われた。



■今後の展望

人口減少・経済縮小下での復興をいかに進めるか。これが、本震災復興にあたっての一番の論点である。これまでの「復興」が意味してきた「何を作りなおすか」という議論から、「何を諦めるのか」という縮小(撤退)を前提にした考え方にシフトしなければならない。一方で、既成観念にとらわれないダイナミックなプランニングも求められている。このような中で、学生と地域住民が向き合い、忌憚なき議論を行えるのは双方にとって大変有意義であると感じた。これからも、継続的に意見交換の機会を設けながら、大学・学生が貢献できる復興まちづくりへの具体的役割について検討していきたい。

■謝辞

本活動は、慶應義塾大学 SFC 気仙沼復興プロジェクトの一環として、都市・地域計画を専攻する学生有志によって企画立案されたものである。また、2011 年湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」の支援によって行われた。末尾ながら記して感謝申し上げる。